

■ □ = = = = =

□ 株式会社 京浜予防医学研究所

■ □ KMLメールニュース □ ■ ◆ ◆ VOL. 24 ◆ ◆

= = = = = □ ■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2009年 3月 23日発行

□ ■ http://www.kml-net.co.jp/

KMLメールニュースVOL. 24をお送り致します。  
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の  
一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 スギだけじゃない春の花粉症-こんなアレルゲンに注意！
- 【2】 感染症トピックス：多剤耐性菌に23人院内感染
- 【3】 タミフル耐性流行でリレンザ、200万人分緊急輸入へ
- 【4】 検査受託中止のお知らせ

1 スギだけじゃない春の花粉症-こんなアレルゲンに注意！

春の花粉症の原因アレルゲンといえば、スギの花粉がよく知られています。  
しかし、スギの花粉以外にもヒノキやハンノキなども花粉症の原因アレルゲンになり、この季節、花粉症の原因はさまざまです。

スギ花粉症の人は、“約60%が他の花粉にも注意が必要”とされ、ハウスダスト、ダニに対し高い感作率”との報告があります。  
また、花粉症時期には目鼻が敏感になりますので、年間を通じて存在するダニやペット、ゴキブリなどの通年性アレルゲンにも注意が必要です。

花粉症など、アレルギー性鼻炎の治療は、アレルゲンの除去と回避、薬物療法、特異的免疫療法、手術療法に分けられます。  
中でもアレルゲンの除去と回避は、アレルギー性鼻炎の治療の基本とされています。  
症状がひどくなる前に適切な診断を受け、原因アレルゲンを除去回避することが重要です。

○ 重症化を防ぐには？アレルゲンの除去と回避が重要 ○

アレルギー性鼻炎の治療は、アレルゲンの除去と回避、薬物療法、特異的免疫療法、手術療法に分けられます。中でもアレルゲンの除去と回避は、アレルギー性鼻炎の治療の基本とされています。  
以下に主なアレルゲンの除去方法について記載いたします。

- 室内ダニの除去
- ・室内の掃除には排気循環式の掃除機を用いる。
  - ・1回20秒/平方メートルの時間をかけ、週に2回以上掃除する。
  - ・織物のソファ、カーペット、畳はできるだけやめる。
  - ・ベッドのマット、ふとん、枕にダニを通さないカバーをかける。
  - ・部屋の湿度を50%、室温を20-25℃に保つよう努力する。

- スギ花粉の回避
- ・花粉情報に注意する。
  - ・飛散の多い時は、外出を控える、窓・戸を閉める、外出時にマスク・メガネを使う。
  - ・表面がげばげばした毛織物などのコートの使用は避ける。
  - ・帰宅時、衣服や髪をよく払い入室する。洗顔、うがいをし、鼻をかむ。
  - ・掃除を励行する。

○ 原因となるアレルゲンを知るには？ ○  
アレルギー検査「特異的IgE検査」が有効

アレルゲンを除去回避するには、原因となるアレルゲンを知ることが重要です。自己診断でなく、アレルギー検査を受け、医師による適切な診断を受けることが必要です。アレルギー検査には様々な種類がありますが、血中のIgE抗体を測定する「特異IgE検査」は、「鼻アレルギー診療ガイドライン」でも、重要な診断基準とされています。

【 2 】 感染症トピックス：多剤耐性菌に23人院内感染

多剤耐性菌に23人院内感染 4人死亡  
福岡大病院 呼吸器通じ拡大か

昨年10月から今年1月にかけて、福岡市の福岡大病院救命救急センターの集中治療室（ICU）に運ばれた患者23人が、ほとんどの抗菌薬が効かない多剤耐性のアシネトバクター菌に院内感染していたことが23日、分かった。うち20-60代の男女4人が死亡。病院側は「2人は感染と無関係の死亡だが、残る2人は因果関係がないと断定できない」とした上で、感染が人工呼吸器の使用を通じて広がったとの見方を示した。

同病院は救命救急センターへの患者の受け入れを23日から中止。福岡市は同日までに立ち入り調査した。今後国立感染症研究所と連携し、死因の特定や感染経路など詳しい調査を進める。アシネトバクター菌による院内感染は、国内では極めて珍しいという。

厚生労働省は23日、アシネトバクター菌について「海外を中心に治療困難な事例が報告されている」として院内感染対策の徹底や、感染が疑われた場合の国への速やかな報告を都道府県などに求める通知を出した。

福岡大病院の調査によると、韓国で肺炎を発症し、日本に帰国後の昨年10月に入院、その後死亡した男性へのアシネトバクター菌感染者が確認されたのははじめ、いずれもICUで呼吸器を使用した患者計22人と、呼吸器の部品から同菌が検出された。部品は使用後に洗浄するなど感染防止策を取っていたという。ほかの1人はICUから一般病棟に移った後に感染した可能性が高いとしている。

福岡市によると、アシネトバクター菌は土壌など自然界に広く存在しているが、免疫力が低下した状態で感染すると、重い肺炎や敗血症を発症し死亡することもある。

2009年1月26日 共同通信社

【 3 】 タミフル耐性流行でリレンザ、200万人分緊急輸入へ

インフルエンザ治療薬「タミフル」が効きにくい耐性ウイルスの流行を受け、グラクソ・スミスクライン社は10日、同治療薬「リレンザ」200万人分を、フランスから日本に緊急輸入すると発表した。

タミフルに代わりリレンザを使うケースが急増しているのに対応するのが狙い。

同社によると、今月中に40万人分、3月に60万人分、4月に100万人分を輸入する計画。同社は今冬の前には、300万人分を準備していたが、医療機関などからの注文が1月中旬から急増に増え、在庫不足を防ぐため、先月22日から出荷量の調整を行っていた。国内のインフルエンザ治療薬の年間使用量は平均で、600万人分と言われており、今回の大量輸入で治療薬が不足する恐れはないとしている。

国立感染症研究所によると、今冬に検出されたインフルエンザウイルス全体の52%がAソ連型で、その大半が耐性ウイルスという。

2009年2月11日 読売新聞

